

古式ゆかしく「森田記念館」の起工式を挙行 故森田名誉会長の二人のお嬢さんを来賓に

C S Pの創業 35 周年と、創業者の故森田名誉会長をはじめ物故社員の業績を顕彰して建設される「森田記念館」の起工式が 11 月 6 日、東京都町田市の東京研修センター 北側隣接の予定地で、出佐会長、福西社長、関係役員と、来賓の故森田名誉会長の二人のお嬢さん、株式会社間組など設計・建設担当者らが出席して行われました。東京都町田市旭町の東京研修センターで、記念式典が行われました。講堂、視聴覚教室など研修センターの補完施設、ギャラリー、物故社員の慰霊碑などを備えた 2 階建ての記念館は、来年 7 月末に完成予定です。

C S P 創業者の故森田名誉会長が、東京都目黒区内に旧東京研修所を作ったのは、創業からわずか 5 年後の昭和 46 年 11 月 1 日。まだ揺籃期の警備業界では初の研修所で、そこには「質の高い警備サービスを提供するには、優れた人材育成が不可欠」との、当時の森田社長の意気込みがありました。

9 年前の平成 4 年に建設の、2 代目の東京研修センターでの記念式典は、出佐会長、福西社長はじめ、歴代の研修所長らが出席、福西社長が「いかに技術が進歩しても、『最後は人の力、人の心』です。お客様にますます信頼される C S P であり続けるために、仕事に取り組む心意気・精神を鍛え、心をひとつにして頑張っていきましょう」と挨拶しました。

C S P は、東京研修所に続いて 5 年後に関西研修所を作りましたが、その開設 25 周年式典も今年 7 月に行われています。



「古式ゆかしく行われた起工式会場」



「正面から見た森田記念館完成模型
背後に研修センター」



「鍬入れを行う福西社長」



「鍬入れを行う故森田名誉会
長の長女伸子さん」



「施主を代表して挨拶をする
出佐会長」

《会長、社長らが次々に鍬入れ》

関係者約 30 人による起工式は、地元神社の宮司を祭主に古式ゆかしく進められました。祝詞奏上などに続き、出佐会長、福西社長、故森田名誉会長の長女、徳田伸子さん、建設を請け負う間組の清野裕之専務・建築事業総本部長が工事の無事を祈って鍬入れを行いました。無事に起工式の神事終了後、祝賀の直会(なおらい)に移り、出佐会長が施主を代表して

「この記念館は、手狭になってきた隣の研修センターの補完と、故森田名誉会長が生前に言われた、創業以来、努力とご苦勞を重ねられた先輩社員への感謝と慰霊の気持ちを込めて計画されました」と挨拶しました。次いで、清野間組専務から「当社の技術力によって、立派な施設をお引き渡ししたい」とのお話がありました。

《慰霊碑は二つのオブジェで構成》

こうして、着工の運びとなった同記念館に安置される故森田名誉会長と物故社員の慰霊碑の模型も、東京芸術大学美術学部の工藤晴也助教授により完成し、C S P 関係者に披露されました。

「響和の碑」と名付けられた慰霊碑には「故森田名誉会長の創業の精神とそれを支えてきた物故社員の意思、そして現役の社員一同の心が強く結び付き、信頼し合い、響き合う」との願いが込められています。未来(大空)へ強くはばたくC S Pの姿勢を象徴する翼と、物故社員の銘板が収められる三角錐の二つのオブジェから成っています。記念館には、正面玄関のやや右手から背後の東京研修センターへ向かって、建物を二分して貫くガラス張りのアトリウム(吹き抜け)が作られます。慰霊碑は、正面玄関からアトリウムへ入ったすぐの所に安置されます。



「完成した慰霊碑の模型」